

交

い

かいじあむ通信
kai

第63号

2026年2月9日発行
山梨県立博物館

国宝「達磨図」

(向嶽寺蔵)

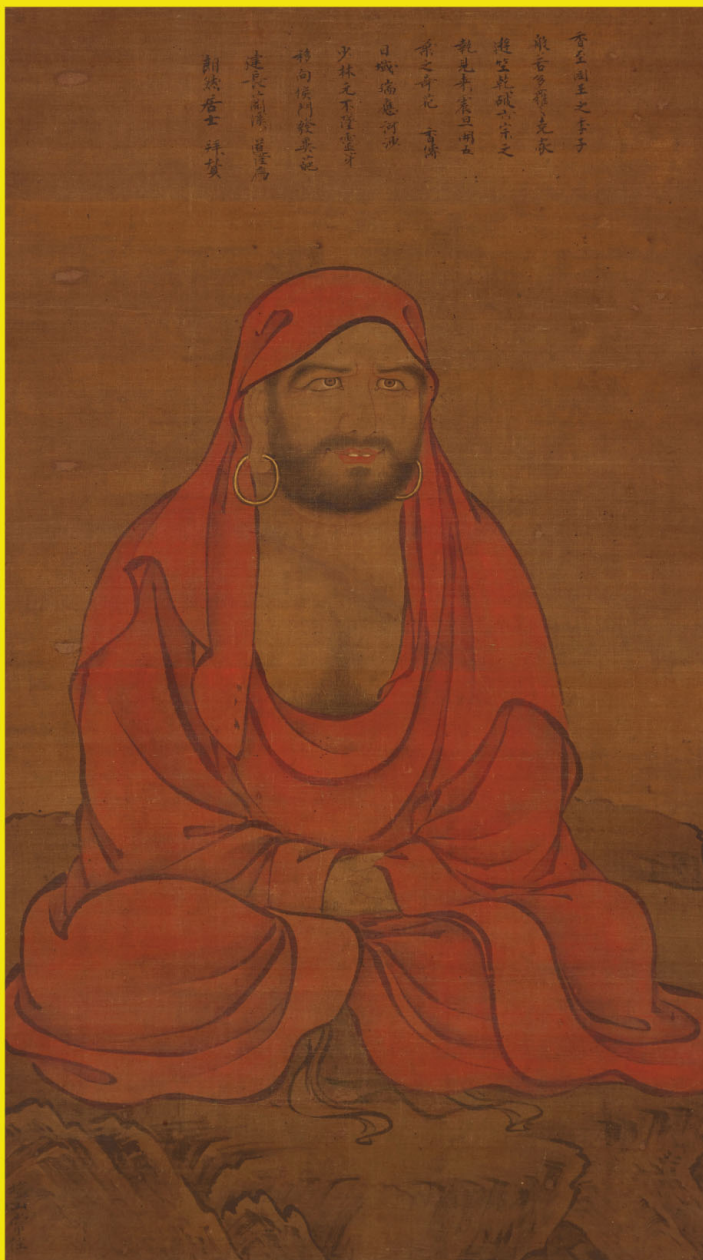
画像提供: 東京国立博物館

Image: TNM Image Archives

展示期間 3/14~23

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum



特別展で
役立っ



覚えておきたい

禅宗用語

ZEN
BUDDHIST
CULTURE
IN YAMANASHI

頂相
ちんそう

禅僧の肖像画のこと。

禅宗では、師からの教えをととても大切にします。頂相は、正しく教えを受け継いだ「証」として弟子に与えられるが、師の姿を写した頂相もまた尊重される。

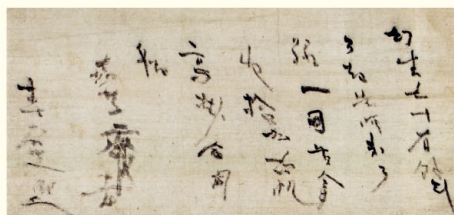


写実的なものが多いのが特徴。彫刻の頂相もあります。



遺偈
ゆいげ

禅僧が臨終の際に、弟子や後の世の人々に対して遺す辞世の偈頌のこと。



偈頌
げじゆ

とは…
仏法の教えを詩の形式で表したものです。

達磨
だるま

禅宗の開祖。インドの僧侶と伝えられる。6世紀初め頃に禅を唱えて中国に渡った。



縁起物の「達磨」は、達磨大師が座禅する姿をうつしたものです。



「おもちゃ籠」より

山梨県立博物館開館20周年記念特別展

山梨の

禅宗文化

おのれと向きあう

2026

3/14^土 → 5/6^水

鎌倉時代以降、各地で展開した仏教の各宗派の中でも、禅僧・蘭溪らんけい道隆どうりゆうの来甲や、室町幕府で重用された夢窓疎石むそうそせきとその弟子たちの活躍など、禅宗は山梨と深い関わりを築いていました。本展では、禅僧らがもたらした影響のほか、絵画や彫刻などの芸術作品を通して、山梨で展開した豊かな禅宗文化についてご紹介します。

限定公開

向嶽寺蔵

国宝「達磨図」3/14^土 → 23^月

甲州市指定文化財 白隠慧鶴筆「達磨像図」(部分、恵林寺蔵、信玄公宝物館保管) 展示期間 3/25 ~ 4/6、柳沢吉里筆「達磨図」(部分、東光寺蔵) 展示期間 4/8 ~ 5/6、重要文化財 春屋妙葩筆「春屋妙葩墨蹟 遺偈」(鹿王院蔵) 展示期間 4/8 ~ 5/6、重要文化財「夢窓国師坐像」(部分、古長禅寺蔵)、山梨県指定文化財 春国光新賛「桃隱和尚像」(部分、南松院蔵、山梨県立博物館寄託) 展示期間 3/14 ~ 4/6

学芸員 おすすめの一品

資料の見どころを
ご紹介します



大陸から渡ってきた器

こ ところ なめ おお がめ

古常滑大甕

し な せい じ わん そめつけわん さら き せ と さら
支那青磁碗、染付碗・皿、黄瀬戸皿

(新巻本村遺跡 / 個人蔵 / 山梨県指定文化財) 室町時代

常設展で会える! 「道がつなぐ出会い」コーナー

笛吹市一宮町の新巻本村地区の個人宅から、昭和8年(1933)の道路工事の際に発見された、
常滑焼の大甕。中には中国産の器や瀬戸・美濃焼の皿など合計38点が重ねられて収納されていました。

大甕の中から出てきたものは…

青磁碗

周りや内側に花卉が描かれた華やかなデザインの青磁のお碗は、中国で作られたものです。山深い内陸地の甲府盆地にも流通しました。



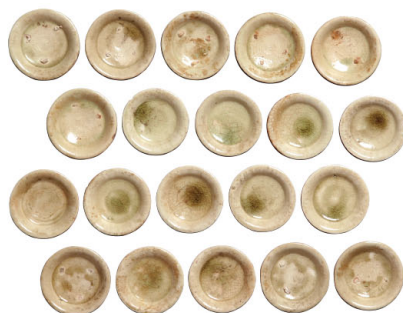
染付碗・皿

白色胎土に青色の絵具で模様を描き、釉薬をかけた染付の器は、お碗2点と中・小の皿10点。皿には、内側に玉を抱いた獅子や花を十文字にデザインした文様など、外側には中国に起源を持つ花や唐草文様などのおめでたい文様が描かれています。



瀬戸・美濃産の皿

愛知県瀬戸・美濃地域で生産された灰釉陶器の皿は全部で20点。ほぼ同じ大きさであることから、人が集まる大切な席で使われたのかもしれない。



どうして貴重なものが埋められていたの?

まつ
祀りや願い事をかなえるために神社の前に埋めたとする説や、戦乱から逃れるために隠したのではないかとする説があります。

模本が伝える不動明王の姿

し ほん ちゃくしよく ふ どう みょうおう そう

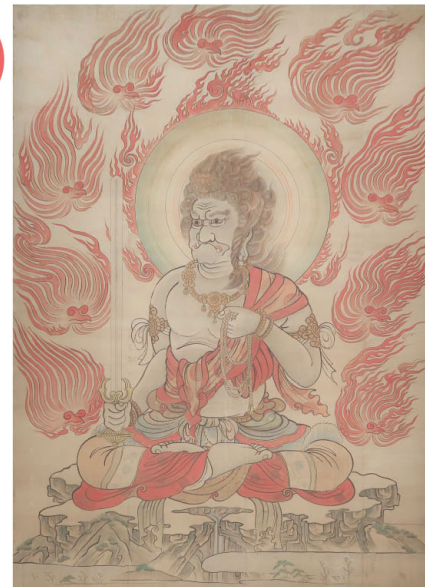
紙本著色不動明王像

(横田汝圭筆 / 大善寺蔵 / 山梨県指定文化財)
文化4年(1807)

江戸時代に描かれた縦453.0cm、横328.5cmの巨大な仏画。平安時代に描かれた「絹本著色不動明王像」を、横田汝圭という画家が原寸大で模写したものです。模本の元となった原本は、現在描かれている内容が見えにくくなっていますが、この仏画が当時の模様や色を伝えてくれています。

模本

(江戸時代)



原本

(平安時代)

絹本著色不動明王像

(大善寺蔵 / 山梨県指定文化財) 平安時代



縦4メートルを超える原寸大模本

大きい!

どうしてこんなに大きいのか?

不動明王像は儀礼の時に掛けられました。これほど巨大な仏画を用いることは、儀礼の壮大さや、大善寺とその寺を支える三枝氏の勢力の大きさを伝えています。

大切に伝えられた仏画

原本の不動明王像は平安時代に描かれて以降繰り返し修理され、近年では令和3年から7年まで修理が行われました。原寸大の模本が作られたことから、大切に伝えられてきた仏画であることが分かります。

シンボル展で会える! 2027年1月23日(土)~2月23日(火祝)

大善寺不動明王像 - 現代に伝わる巨大絵画 二幅同時公開 -

常設展

テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています。

「山梨の春は、桃と桜と信玄公」 2026年2月18日(水)~4月20日(月)
桜舞う春の中、山梨ゆかりの戦国武将、武田信玄にまつわる資料をご紹介します。

「資料でめぐる山梨の旅」 2026年4月22日(水)~6月22日(月)
展示室の資料をめぐってワクワクの山梨の旅に出発!

「世界遺産 富士山」 2026年6月24日(水)~8月24日(月)
日本が世界に誇る富士山に関する資料をご紹介します。

「歴史のなかの生きものたち」 2026年8月26日(水)~10月31日(土)
愛でる、育てる、使う、祈る、食べる…。人と動物の多様な関係の歴史をご紹介します。

2026年度 企画展・シンボル展

展覧会の名称は変更になる可能性があります。

シンボル展 地方病流行終息 30 年 (仮称)

2026年5月23日(土)～6月29日(月)

平成8年2月19日に発出された地方病流行終息宣言から30年の節目を迎えることから、記憶の風化が進む地方病(日本住血吸虫症)に対する山梨の人々の取り組みを振り返り、感染症や環境、共生とはなにかを考えるきっかけにさせていただく機会とします。



「俺は地方病博士だ」(当館蔵)

企画展 『ゆるキャン△』と山梨▲

2026年7月18日(土)～9月7日(月)

多くの観光客が訪れる名所や知る人ぞ知る観光スポットなど、様々な観光地がある山梨の魅力をマンガ・アニメで紹介し、大きな反響を呼んだ『ゆるキャン△』。本展では、作品の登場キャラが訪れた山梨の観光地を中心に、その地の歴史・文化や地域の特色を紹介し、山梨に「何度も訪れたい」と感じられる魅力を発信します。



©あろ・芳文社／野外活動プロジェクト

イベントのご案内 2026年4月～9月

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。

● ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。

開催日 4/18、5/16、6/20、7/18、8/15、9/19

時 間 13:30～14:30

● かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。

開催日 4/25、6/27、8/22

時 間 13:30～15:00

申 込 055-261-2631

● 古文書整理体験教室 定員10名

開催日 6/11

申 込 055-261-2631 *4/11より受付を開始します。

● 古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。

開催日 5/17、7/19、9/20

時 間 10:00～13:00

*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。

*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。(055-261-2631)

⊕ あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。

常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。

土曜日(交互に開催) 11:00～11:30

「あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば」と「常設展スルーガイド」は交互に開催します。詳細な日程はホームページなどでご確認ください。

● かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。

開催日 5/9、7/11、9/12

● 館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。

開催日 5/23、7/25、9/26

時 間 13:30～15:00

□ その他イベント

・かいじあむ こどもまつり 5/5

・夏休み自由研究プロジェクト合同プレゼン
7/20(海の日) *会場:アイメッセ山梨

・かいじあむの夏まつり 8/15

企画展 甲斐絹物語

2026年10月10日(土)～11月30日(月)

山梨県の富士山周辺の地域では、近代に「甲斐絹」と呼ばれる薄絹が生産されました。羽裏に使用されたその布の生産は、衣生活の変容等により昭和時代初期に途絶えてしまいました。本展では生産史を振り返るとともに、和装文化における裏地の役割や生地の特性と魅力にも注目します。

シンボル展

大善寺不動明王像 ー現代に伝わる巨大絵画 二幅同時公開ー 2027年1月23日(土)～2月23日(火祝)

大善寺の絹本著色不動明王像は縦4mを超える巨大な絵画です。平安時代に描かれてから、幾度の修理を経て大切に伝えられてきました。最近では令和3年から7年まで修理が行われ、本展は修理後初公開となります。また、江戸時代に描かれた原寸大模写も同時に公開し、文化財を未来へ残すことについて考える機会とします。

企画展 徳川家康と甲斐 (仮称)

2027年3月13日(土)～5月5日(水祝)

江戸幕府を開いて泰平の世を築いた徳川家康は、甲斐国とも深い関わりがあります。武田信玄・勝頼との厳しい戦いや、武田氏滅亡後の動乱などを経て、家康は全国有数の大名に成長し、天下人への礎を築きました。本展では徳川家康に関する最新の研究成果を踏まえて、甲斐との関係を中心に新たな家康像を知る機会とします。

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

山梨の禅宗文化 3/14～5/6

地方病流行終息30年 5/23～6/29

7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

『ゆるキャン△』と山梨▲ 7/18～9/7

- 休館日
- 館長トーク
- 古文書講座
- 古文書整理体験教室
- 古文書相談日
- 子ども工房
- お庭の見どころガイド
- その他イベント

休館日や日程は変更になる場合があります。必ず当館ホームページなどで確認のうえ、ご来館ください。

かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な
話題をお届けします



海外展示への協力

2025年9月4日～12月28日に、当館と学術交流協定を結んでいる韓国 国立清州博物館において、特別展「富士山に登る、山梨(韓国語名称: 후지산에 오르다, 야마나시)」が開催されました。同展には、当館をはじめ県立考古博物館や県内市町村の所蔵資料が出品され、山梨県の歴史文化を広く紹介しました。

当館からは、富嶽三十六景や小桜韋威鎧 兜・大袖付(復元品)、甲州道中図屏風などを出品しました。海外に出品する初の機会となり、資料の輸送や現地での展示作業には、当館学芸員も同行して立ち会うなど、貴重な経験を得ることができました。

特別展の来場者は3万7000人を超え、最終日には約2600人のお客様を迎えるなど、盛況のうちに終えたことは、何より嬉しいことでした。山梨県と姉妹関係にある忠清北道の皆さんに山梨の文化に触れていただき、当館としても大きな成果となりました。



関係者による記念撮影



展示風景

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*5/7、9/24は休館。8/12は開館。

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*割引料金等につきましてはホームページなどでご確認、またはお問い合わせください。

かいじあむ通信「交い」第63号 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

発行日: 2026年2月9日

編集・発行: 山梨県立博物館

Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。

山梨県立博物館
ホームページ

